

避難失敗を疑似体験する 避難シミュレーションゲームを実施



2019/10/21

防災・防火訓練の一環として

香川大学 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構

避難失敗を疑似体験する 避難シミュレーションゲームを実施

防災・防火訓練の一環として

実施概要

令和元年 10 月 21 日(月)、四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構は、NPO 法人「災害危機対応支援センター」とともに、香川大学創造工学部で行われた防災・防火訓練の中で、避難訓練に参加した学生・教職員全員を対象に避難シミュレーションゲームを実施しました。

避難シミュレーションゲームとは

徳島県が NPO 法人「ホワイトベースとくしま」と連携し「自分の命は自分で守る」をテーマとして作った実践型避難訓練です。避難シミュレーションゲームのさわりの部分を下記に紹介します。

“災害を「イメージ」できるツールとして、防災意識の啓発を行っていく上で、自ら災害のことを考える「きっかけ」作りができる訓練として開発されたのが、この「避難シミュレーションゲーム」です。”

“「避難シミュレーションゲーム」では、液状化や建物の倒壊を想定し、避難経路上に障害物を設置します。身体も災害で被災したことを想定して、目隠しや片足立ちの参加者も混じります。”

“身体が被災し、普段なら問題なく通過できる所が困難になると言う点が参加者に分かり、「助かるのが当たり前」ではなく、「助かろうとしなければ助からない」ということが体験を通じて実感できれば、この訓練の意図となります。”

(引用：「自分の命は自分で守る」避難シミュレーションゲーム運営マニュアル)

この訓練は 5 人 1 組の参加となり、うち 3 人は負傷者として目隠し・両腕不使用・片足不使用で参加します。これにより、家庭内の家具などが散乱した避難路を自分や仲間が怪我をすると避難しにくくなる事を体験してもらい、家の中の安全確保、自分や仲間が怪我をしないための備えについて考えてもらう機会としました。

避難失敗を疑似体験する 避難シミュレーションゲームを実施

訓練の様子



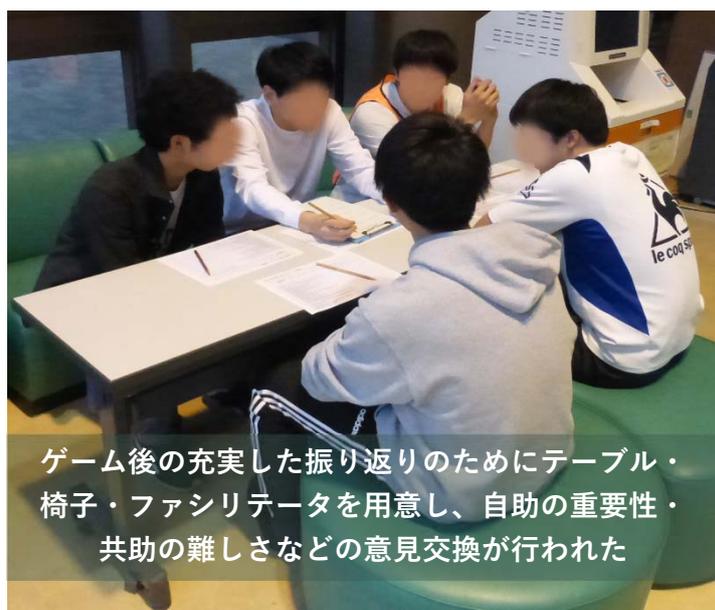
避難シミュレーションゲームのコース
割れたガラスを模した人工芝や大量のクッション
などの障害物を配置



通報連絡班・応急救護班の教職員グループも参加
片足でポールを乗り越えるのに難儀



どのチームも目が見えない役割を持つ避難者の
対応に苦慮していた様子



ゲーム後の充実した振り返りのためにテーブル・
椅子・ファシリテータを用意し、自助の重要性・
共助の難しさなどの意見交換が行われた

訓練後の振り返りとアンケート

避難シミュレーションゲームを実施した後、参加者にゲーム後の振り返りと共にアンケート調査を実施しました。アンケートでは「目が見えないのが怖い、方向感覚がわからない」「時間がかかってしまって助からないと思った」といったハンディキャップを負った人と一緒に避難する難しさや、「連携、声掛けが重要」「けがをしない装備をあらかじめ準備する」といった避難の工夫や備えについて、「色々な人と信頼関係を築く」「バラバラで行動するのではなく、5人で助け合って行動すれば良いと思う」といった共助の必要性について等の回答が多くみられ、本ゲームを通じて参加者の災害に対するイメージや自助・共助の大切さを再確認するものとなりました。